

平成29年度 第3回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日時】 平成29年9月1日（金） 午後4時～6時
【場所】 BIZ新宿（区立産業会館） 多目的ホール
【出席者】 委員：植田、遠山、長山、松尾、堀米、前田、武山、青木、益田、太田、橋本、友成各委員
事務局：村上文化観光産業部長、太田産業振興課長、小泉文化観光課長、黒澤産業振興係長、久野主任主
事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 富田委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内容】

1 開会

2 委員委嘱

3 区長あいさつ（要旨）

新宿区は、商業・工業・文化・居住機能など、都市としての様々な機能を持っており、他の区と同じように、産業の硬直化や経営者の高齢化などの課題を抱えている。中小企業は大手企業と違い、売上が下向くと、他の売上で挽回することや多様な手段を講じることが難しい。新宿の企業がいかに生き残っていくのか、新しい店舗を開いていくのか、そのような観点から様々なご意見をいただきたい。

また、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向けて明るい兆しが見えるが、開催後に対して、どういった手を打つべきなのかを考えていかなければならない。今後10年間のプランを検討していただくことになるが、どうか区内の産業に携わる方々にとって、希望となるプランになるよう、お力添えをお願いしたい。

4 委員自己紹介

5 議 事

(1) 会長の選出・会長あいさつ

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、互選により植田委員を会長として選出した。

会長あいさつ（要旨）

・新宿区とは、産業振興基本条例の策定に携わり、この産業振興会議は3期6年、トータル8年ぐらいのつきあいである。条例の策定から参加されていた方、1期の会議から参加されていた方が、今回一気に入れ替わったが、前期までのいいところは引き継ぎながら新しい形で進めていきたい。自由闊達に議論していくところ、また出来たらこの場を通して、企業や機関の間に新しいネットワークが生まれていく。この2つがこの会議のいい点だと思っている。委員同士で新しい企業が生まれたほか、委員の企業がこの会議で新しい方法を得て区と一緒に新しい事業展開を行うなど、いろんなことが活発に行われてきた。この会議に参加している企業や団体の方がまず動いて、新しくチャレンジされて、それが新宿区全体に広がっていくような実のある会議にしていければと考えている。

(2) 副会長の指名

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、会長が遠山委員および長山委員を副会長に指名した。

(3) 第3期報告書について

資料3に基づき、第3期報告書について事務局より説明した。

(4) 第4期の進め方とスケジュール

資料4に基づき、第4期の進め方について事務局より説明した。

(5) 次期産業振興プランの検討

資料5および資料6に基づき、次期産業振興プランについて検討した。

6 主な発言内容

次期産業振興プランについて

- ・基本目標の概念図が視点と合わさった形に修正され、プランの構成の図が追加されたことでわかりやすくなった。基本目標の説明文は「地域に根ざす」意味合いが弱い。地域に根ざして発展していく企業と、これから地域に根づいていく企業の双方の支援が必要なことを記述したほうが良いのではないかと。
- ・前回会議での基本目標の議論の中に「環境変化に対応し持続的に発展するまちの実現」というものがあったが、今回の案にはなくなってしまう。「革新と創造」だけでは、新しさばかりが目立っている印象がある。「伝統」を大事にし、「伝統」あつての「革新」という記述が必要だと思う。
- ・基本目標の説明文に「持続的に企業が存続する」ことを謳っており、「伝統」を排除している訳ではない。ただ「伝統」だけでは事業を維持していけない実態もあるので、企業が努力していかなければいけないと思う。
- ・この会議に参加している人だけが産業振興プランを見るわけではないので、わかりやすさを考えるのであれば、「伝統」や、企業が持っている「独自性」「個性」を活かすことをしっかりと書き込んでほしい。
- ・印刷業にも伝統的な側面や技術に特徴があり、新宿の地場産業でもある印刷業を発信できるものはないか探している。業界では15年ほど前から革新を進めており、時代に合わせ古くなった技術や機械を手放している部分もある。古いものと新しいものを融合させていくのは難しいが、次の時代に光を当てていけるものを生み出していければと思っている。新宿に集積していることが力であり、形は変わってもその価値を発信していきたい。
- ・新しいものと古いもの、今までつながっていないものをつなげるのが価値創造で、そういった価値創造には、それに関わる者が入ってくる「エコシステム」が大事ではないか。従来の産業の枠組み、業界の枠組みをいかに飛び越えて、新しい環境を作り出す人たちが繋がる仕組みや体系を形成するか。比較的境界が緩いシステムがいくつかあり、自己作用や自己進化、共鳴しながら意外なものが結びつく。新宿ならではの、未来をリードする産業（インダストリーズ）の形成が必要であると思う。
- ・新宿は産業に関わる色々な人が多数いて、多様性が担保されていることは非常にアドバンテージがある。アドバンテージはあるが、中心となる人材の育成や人の確保、後継者育成などは気になるところである。事業を継ぐ人の意識づけ、グローバルに捉えた考え方などの教育が必要ではないか。そのようなことを中長期的に考えるには今後10年が大事である。
- ・「リード」という言葉は他の言葉に言い換えたほうが良い。「エコシステム」という言葉を使うと、「エコシステム」とは何かという話にもなる。産業という言葉がないのはいかがなものかと思うので、落としどころとして「産業システム」はどうか。概念図を見てもまさに「産業システム」だと思う。好循環の仕組みをどうするかという話になっているので、未来を切り開く「産業システム」のほうが、従来型の産業システムと違うということがわかりやすいのではないかと。
- ・課題を踏まえて基本目標をつくるのであれば、「システム」や「ネットワーク」という内容が課題ではあまり触れておらず、企業単体の課題のみと感じる。企業は他者との連携やネットワーク無くして展開はできないので、そのあたりを少し書き込んでほしい。
- ・言葉として「未来」という言葉はなくてもいいのではないかと。
- ・基本目標は、本日の議論を踏まえ現在の案を見直すと「未来を切り開く産業システムの形成」、あるいは「持続的・発展的な産業システムの形成」ではどうか。「産業」よりは「産業システム」のほうが良いと思う。
- ・企業によっては未来よりは現在を懸命に活動しているところもあり、未来をリードといわれると気おくれしてしまうかもしれないので、「持続的・発展的」のほうが企業からするとわかりやすいのではないかと。
- ・「伝統」をキーワードとして匂わすのであれば、「未来」でなく「持続的・発展的」という表現がいいだろう。

7 次回日程について（予定）

日 時：平成29年12月上旬

会 場：BIZ新宿

8 閉 会